

今年も大盛況・岩村ふれあい祭り

会場がひとつになった豆電球のライブ

安い・美味しいと屋台ブースも完売の人気ぶり



9月9日(土)、多少の曇り空ではありましたが満点の祭り日和となり、第14回岩村ふれあい祭りが開催されました。当日は、岩村地区内外からたくさんの方々にお越しいただき、生ビールなどの飲み物、焼き鳥、



いっぱいのお客様

今年のプログラムは、内容的に昨年までとあまり変えてはいませんが、日章太鼓、ベリーダ

やきそば等の各ブースは買い求める人、人、人でごった返し、担当のスタッフは大忙しで対応していました。「安い」「美味しい」の評判で、毎年完売が多いことから昨年からおでんを追加販売し今年も大好評でした。しかし、終了前にはほとんどのブースが完売となり、お越しいただいた皆様にも多少ご迷惑をかけることとなりましたが、概ね計画どおりの開催ができたと自負しております。



ベリーダンス最高!

今年も、プログラムを含め運営方法等皆様からのご意見をいただきながら、更に活性化した「岩村ふれあい祭り」を目指していきたいと思っています。(寄稿者・田所秀二岩村ふれあい協議会会長)



日章和太鼓クラブの熱演

いわむら

発行
岩村公民館

37号

やっと、思いつき前交差点に信号がつく



これで、事故が減るねえ。
よかったよかった

(編集部) ようです。置される

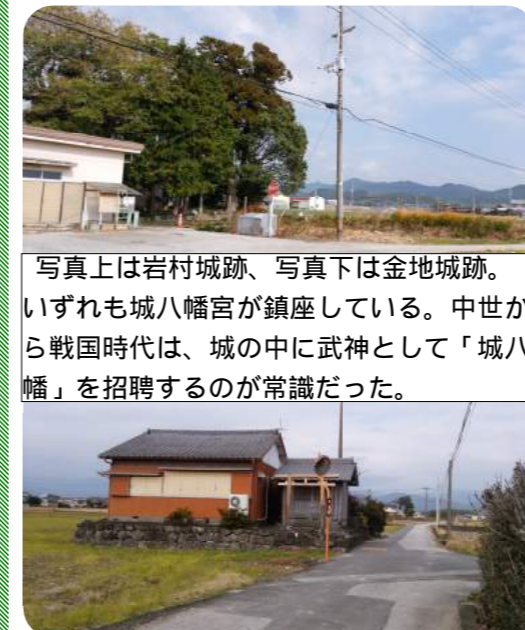
福船の喫茶・思いつき前の交差点にやっと信号がつくようになり。事故が多発していた、この交差点を「何とかしてください」との住民の声を聞き、岡崎純男市議が数年前から、南国警察署や南国市役所に要望していましたが、なかなか進行せず、ついに信号設置の決定権のある、高知県警本部の交通部長や交通規制課長と直接会い、事故多発の前例や危険性を説明し、設置が決定しました。早ければ、今年中、遅くとも今期中に設置される

岩村の歴史 ヒストリア

第8回

岩村には3つの城と多くの寺があった

戦国時代以前の中世には、岩村に3つの城があった。福船の福田八幡宮付近にあった「岩村城」と金地の集会所付近にあった「金地城」そして包末の「包末城」でした。岩村城は、佐伯文書で存在が証明されているし、地番の小字(ホノキ)でも福船には「城の内」「城の東」「城の南」として残っている。金地にも「金地城」があったとされる付近に「城ノ丸」「城ノ後」の小



写真上は岩村城跡、写真下は金地城跡。いずれも城八幡宮が鎮座している。中世から戦国時代は、城の中に武神として「城八幡」を招聘するのが常識だった。

字が存在する。一方包末の「包末城」跡は、小字はないものの、城跡といわれる土居の名残が残っている。また、江戸時代初め(1635年)社奉行の設置により、「一村一ヶ寺制度」が導入され、ひとつの村に一つの寺が存在した。そして住民は全員必ず檀家に入らなければならない。去帳が現代の住民票の代わりをしたものと考えられる。岩村で有名なのは神通寺分ではあるが、津野神社隣の霊源寺(後に孝山寺に改められ、明治4年廃仏毀釈で廃寺)である。小字(ホノキ)でみると、寺院跡らしきものがみられる。福田村は北方に「才源寺」があり、船渡村には南方に「寺屋敷」がある。金地村には「神願寺」があり、包末村には「福楽寺」が小字・堂屋敷にあつたと岩村村史に記載がある。また堀の内村には釈迦ヶ内の小字が残っており興味を引く。しかし何と云っても蔵福寺島村の「蔵福寺」跡は地元住民の周知の事実である。このようにすべての村に寺があったようである。(寄稿者・福船 和田真一)